

2 学校課題研究

下野市立薬師寺小学校

1 学校課題

聴き合い、学び合う授業の創造
～学び合う学びが生まれる授業の実践と協調学習を目指して～

2 研究計画

(1) 研究の方針

- ① 「学び合う学び」を追求し、児童が学びの手応えを感じる授業作りを目指して
 - ・一斉授業中心から協同的な学びの導入（教師は知識の伝達から授業のファシリテーターに）
 - ・児童の「学び」（自分の対話、友達との対話、モノとの対話することで成熟する）を生み出す
 - ・教室に「聴き合う関わり」を形成する（学び合う関わり作り）
- ② 教師の専門家としての仕事率（授業、授業準備、教材研究、研修）の向上を目指して
 - ・教師が自分の授業を開き、全ての教師が研究を共有する（協同的な学び）
 - ・良い授業をつくるのでなく、一人一人の学びを実現し保障することに重きを置く
 - ・授業検討会の充実により、授業研究の真の深まりを期待する（振り返り）
 - ・各個人の研究テーマを設定し、個人研究を進める
- ③ 「学び合う学び」を高める協調学習の研究と実践を目指して
 - ・多様な考え方を生かす学習の在り方（協調学習）を研究する
 - ・「ジグソー法」で授業の質を高める
 - ・「協調学習」を実践し「学び合う学び」を高める

3 研究内容

(1) 研究の方法

① 個人研究を進める

年間を通じて1人1研究を実践する。テーマは自由として、個々の教員が教育のプロとして自分の資質を高め、教育の専門性を高める目的で自由に設定し、1年間追究する。

② 研究授業の質を高める

原則として研究授業公開は、1人1回実施する。「学び合う学びを高める」ことを前提に、協調学習の研究をし、ジグソー法を取り入れ授業実践を行う。

③ 授業検討会を充実させる

授業検討会はS&Uコラボ事業を活用し、外部指導者（大学教授）の指導を受け学びの質を高める。検討会の方法は、各コーディネーター学年が工夫し、更に少人数での話し合いを取り入れ、教職5年未満の先生が発言できる雰囲気作りを心掛けた。またKJ法などを取り入れ、振り返りを重視する。

(2) 研究の実際

① 実践研究授業

教員は年間一回授業を公開することを基本に研究授業を実践し、S&Uコラボ事業として宇都宮大学の先生、宇都宮大学附属小学校の先生、市教委指導主事の先生に直接指導を受けるとともに授業を開くことで学校全体の学びを深める。



② 活動例

日時	形態	授業者	教科	授業	学年
4/16(水)	校内研修	学校課題研修		テーマ設定と個人テーマ決定	
5/21(水)	要請訪問	川島 啓	社会	「これからの米づくりについて調べる」 提案授業、検討会、本年度の重点	5年
6/11(水)	共同訪問	岩崎 美恵	道徳	資料名「ごろりんごろんころろろ」	1年

		館野 如美	道徳	資料名「げん気わくわく」	2年
		野口 貴史	算数	「概数」	4年
		今城 生子	算数	「合同な図形」	5年
7/4(金)	S&U事業	北城 篤史	体育	「病気の予防」	6年
		黒崎 佳代	国語	「うれしいことば」	3年
8/29(水)	校内研修	個人テーマ研究 中間発表			
9/17(水)	S&U事業	石田由起子	生活	「ボウリングゲームをしよう」	なかよし
		塩田 晴治	単元		
		白石 孝子	音楽	「リズムアンサンブルをつくろう」	5年
10/29(水)	S&U事業	鈴木 健史	算数	「角柱と円柱の体積」	6年
		田崎 里佳	国語	「しらせたいな、見せたいな」	1年
11/26(水)	S&U事業 要請訪問	園部 幸男	算数	「立体」	4年
		宮本 元与	国語	「大事なことをたしかめよう」	3年
1/22(水)	校内研修	研修の振り返り 研究の反省			
2/5(水)	校内研修	研究のまとめ 次年度の計画案			

4 本年度の成果と課題

(1) 研究の成果

① 「学び合う学び」の追究では、児童の学び合う関係の構築により、落ち着いた人間関係が生まれ、学級が学びに向かう雰囲気が高まった。その結果、教室では、互いに認め合い、励まし合う良好な関係が生まれた。また、教師も常に穏やかに児童に語り掛け、児童に教える（教授）のではなく、サポート（支援）する関係が充実した。



② 「教師の専門家としての向上」への取組では、授業検討会のコーディネートを通じてファシリテーターとして資質を高めた。公開研究授業における授業構築では、「学び合う学びを育成する」ことを目標に、協調学習を取り入れ、特にジグソー法の展開を心掛けた。結果エキスパート活動の充実、ジグソー活動の高まり、クロストークの工夫が見られ、実践する中で個々の能力も格段進歩した。特にS&Uコラボ事業による、大学の先生からの指導は、核心に迫った適切なアドバイスが効果的であった。



③ 本年度の重点項目である協調学習の研究及び実践では、ジグソー法の導入により、今までの話し合い活動がただの形式に終始することなく、自らの考えを表現し他者からの意見を取り入れる、まさに学び合う学びへと変容した。これにより協調学習の主たる目的である「多様な考えを生かす学習のあり方」について実践を通じ理解が深まった。

(2) 研究の課題

① 本年度新たにスタートした協調学習の導入は、今までの学びの追究に漠然と存在した疑問に対して、1つの方向性を示唆してくれた。しかし協調学習に適した初期の実践として「ジグソー法の展開」を心掛けたが、これは時に形に拘るあまり学習本来の狙いを見失う時も見られた。また各段階を丁寧に実践しなければ価値ある学び合いに至らないため、どうしても時間がかかる傾向にあり、単位時間で成立させようとするあまり指導者の焦りが見られた。協調学習の実践はじっくりと時間をかけて少しずつ学習の主たる児童とサポートの教師が身に付けていかなければならないと感じた。



② 「学び合う学び」の追究は授業の質を高めるものとなり、同時に教師の同僚性の高まりをもたらしたが、互いのよさを認め合う関係からは、切磋琢磨する価値ある同僚性までの高まりが見られなかった。これは互いの取り組みの具体的検証が曖昧で、他の実践を自分の実践に取り入れていく意識が薄かったためと考える。次年度は研究の検証に重きを置き、さらに系統性に踏み込むことで真の同僚性の高まりを目指していきたい。